

日本地質学会
 関西支部報
 1-051 1-20 発行

最近の地質学会から

★ 久野・牛来両氏の研究 アメリカで好評

最近カーネギー研究所のハ木健三氏より便りがあり、久野久、牛来正吉両氏の研究がアメリカで大きな反響をよんでいることが判った。

久野氏の梅根火山の論文が Bull. Geol. Soc. Amc. にでて、堅実なデータに基づく競争として多くの人々から賞讃をうけ、又牛来氏の "Twin Method of the research of metamorphic rocks" の研究が米国の岩石学者、鉱物学者の間で大反響を起しているとのこと。さる11月16日~18日に Geol. Soc. American 及び Min. Soc. America の連合大会があり、その席上で Dr. F. J. Turner が "Observation on twin laws commonly exhibited by plagioclase of metamorphic rocks" を発表しましたが、その内容は牛来氏と同じ結論でした。Dr. Turner は講演が終ると直に "同じ研究が日本の Dr. Gorai によって最近行われた、それについてハ木氏に一語する機会を与えたい" と座長 Dr. Gruner に申し入れた、その際ハ木氏によって地質学雑誌1950年4月号の牛来氏の研究が紹介されました。

Dr. Turner と Dr. Turner の研究を敬愛し論文を Amer. Mineralogist にのせるようにいたしました。

私達は牛来、久野両氏の研究が米国内に於いて賞讃的となつてゐることを喜ぶと共に、米国内以外の諸外国にも行渡る様に、並列各国との自由な学術、文化の交流が行われる様に切望してやみません。そのために全面講和の即時締結されることの必要を痛感します。



★ 地質学会、学会誌の 学問、思想の自由に関する 声明を確認

日本地質学会は10月6日、日本学会誌の声明について会員各位が充分諒解するの声明すると共に、日本学会誌に対し、学会誌の声明が実行されているかどうか充分調査されたい旨の申し入れを行った。尚学会誌の声明は次の如きものである。

大学専攻研究機関の人争については、学問・思想の自由を尊重することを旨とすべきであつて、軍に政黨所産を争奪上の理由として、処置すべきではない。

また、特に大学においては学問・思想の研究に關する教授会の権限が尊重せらるべきであつて、それ以外よりする政治的理由によつて左右されてはならない。

右声明する。

★ 1951年度日本地質学会 總會及年會の スケジュール決定

オ58年總會及年會は京都大学で開かれることは既に御承知の通りですが、今度次の如く細目が決定しました。

期日：1951年4月2日～5日

場所：京都大学法経オ2教室及工学部講義室
 個人講演の外に次の如き討論会（毎日午後）を行います。

粘土鉱物及び粘土鉱床、災害予防に關する地質学的諸問題、西前日本内・外傳の地史及地質構造、鉱床と地質構造との關係、火成岩における混成現象、地層の分け方、名づけ方、日本の変成帯とそれに伴う火成岩、堆積過程、地学教育。

見学会行としては甲陽園（オ3紀層）・夜久野の中古生層。三近山の安山岩、奈良吉野口のシロナイト、飯盛山（1泊2日）。

尚講演御希望の方は1人、1題（10分以内）で個人講演、討論会の區別をつけて1月31日迄に本部行争委員会宛御申し込み下さい。

★ 関西支部会員の 現在の研究テーマ

会員が相互に会員のテーマを知っていないために、色々不便を感ずることが多いので、今後、会員の方々のテーマを御知らせいたします。互に連絡の上、協同研究、同業研究など進められる様、希望いたします。

a) 大阪府立大.

中部九州の火山とオース系、六甲山塊の火成活動と
腐化。 江崎 太郎
火山作用と地層生成との関係。(現在主として播
磨系のオース紀層) 池部 辰生
近畿地方オース紀層の研究。 小島 隆夫、藤田 中世古
沖積の水理地質学的研究。 岩津 境田、竹中 風崎
化学探査と電気探査の関係。 岩津 風崎
河川開発に於ける地学的的考察。 境田 正道

b) 京都大学.

舞鶴地方中古生層の地質学的研究。 中矢 至二
天籟川流域結晶岩地層の地質学的研究。 中山 勇
酒戸内系火山帯の研究。 坂本 隆
鍾乳洞のEuhysite 様岩の研究。 吉沢 甫
ペグマタイトの存在する花崗岩内の放射能強度変
化の測定。 永井 武郎
放射能的方法による花崗岩の研究。 津野 一
アルカリ岩の研究。 春本 賢夫
各種元素鉱物の研究。 田久保 実太郎
岩石及び鉱物の電気導電率に関する研究。 藤村 隆郎
各種元素鉱物の結晶構造に関する研究。 上田 健夫
鉱物の熱膨張に関する研究。 佐藤 剛
ペグマタイト鉱物の放射能測定。 立川 正久
各種元素鉱物の電導率の測定。 楠 登 悟
北支産含硫元素鉱物の研究。 郭 承 基
岩石放射性の地質学への応用。 川井 直人
岩石空疎率と成成作用の関係。 阿部 俊夫
岩石放射能、地質学的年代 etc の研究。 初田 善一郎
小型重力偏差計製作。 坂本 勉
地殻均衡及重力異常の研究。 熊谷 直一
近畿地方、特に北部の古生層の研究。 森下 進
堆積作用の研究。(微古生物学的研究) 森下 正夫
堆積作用の研究。(古生物学的研究) 森下 晶

新生代有孔虫の研究。 藤田 達人
静岡県オース系の研究。 橋山 次郎

c) 京都学芸大.

背州門テルマの生成過程と地下水。 村上 政利

d) 京都工芸大.

オース系成岩のラヂウム含有量。 浅山 哲二
オース系化石の研究。 吉田 重次郎

e) 奈良大学.

吉野山地、中・古生層の層序と構造。 志井 田

f) 大阪学芸大.

奈良盆地南部の鹿嶋花崗岩。 赤塚 久兵衛

★ 陶山国男氏近況

先頃報告した如く理由の分からぬ原因で陶山国男君は
けに陶山国男氏は会費各値の心から作る我々カンバ
ク村して支部宛に、今後も平和のための科学を守る
ために少し救済、会費各値の御援助に感ずる。旨の
礼状送りました。が、堆積作用の研究をどの位も
つづけておられるので、微細地球科学士と独断的に
とんだ論文を発表されました。尚同氏のカンバは
1000円に達しました。

★ 飛弾変成岩と ゴトランド紀層の関係 若い地学者の成果挙る

飛弾地方について、石塚孝吉(名大)、小林 隆夫
(北大)、佐藤 信次(東京文理大)、藤井 節夫(尾
川大)によって前々から研究が行われてきたが、
この度、次の様なことが明らかになった。
片麻岩と古生層(ゴトランド紀、二重紀)と同層
層で接するのでその時代は直接決定できない。時代
未詳の古期岩層(千枚岩、片麻岩、変色チャ
ート、安山岩-玄武岩、硬質岩)はゴトランド紀層と
不連続で村上層(ゴトランド紀)の層に接する
岩、チャート、輝綠岩、硬質岩等がある。この両層の
間には不整合の可能性が大である。
結晶岩と古期岩層とは小さな断層で接し、西
移化する所はみられない。結晶岩は部分的に
par-lit vein ができて所謂三入片麻岩に移

する部分がある。又ゴトラント紀は東西の走向と、ゆるい背斜をなしているのに反し、古期岩戸と結晶片岩とは走向不足で激しい褶曲構造をなし両岩戸の近縁性が予想される。この対応ことから結晶片岩も時代未詳の古期岩戸はゴトラント紀より古いものであろうと推定されている。

累戸によりおおわれおこる、その確は東植田累戸及それ以前の地戸に属、見出せる。

2) 由布、遠見火山岩類は大分累戸の一部を抜き、その確は判田累戸及それ以前の地戸に属認め之は也。

3) 東植田及大分累戸とは、多くの凝灰岩戸を抜き、判田累戸にほそれと全く缺く。

以上の事から、遠見火山区に於ては、東植田累戸生成終了前(一回)及大分累戸の生成が始ってから一回、の二度にわたる主な火山活動期が有り、判田累戸生成の当時(鮮新を末)には火山活動が止期があったと結論する。

更に遠見火山群の地質学的位置(火山系の問題)は火山活動期の異からも、再検討の必要ある事を指摘したい。

日本地質学会 関西支部講演要旨



遠見火山区の地史

(火山活動の時期に就いて)

(1950.10.25講演) 笠岡太郎

地層生成盆地 発展の一形式について

一濃美地方新生代戸の
地質学的研究才三報一

(1950.10.25.講演)

藤田和夫、生越忠

大分県隈別郡に在る火山群については、松本唯一の“由布遠見火山群”の業績が著せられてゐるが、その中で、火山活動の時期に就いては唯、鮮新を以後の噴出によるのみ述べてゐるに過ぎない。

私は同一区域の調査研究を1948年より始め、先に火山岩類の浸成現象の相違から、火山活動の時期が二回有る事を暗示し、前期噴出の輝石安山岩類を主とする、小虎鹿鳴火山岩類と後期噴出の角閃安山岩類よりなる由布遠見火山岩類とを区別して、由布遠見火山群の名称を後期火山岩類の構成する火山群にのみ限定し、遠見火山区の火山群の總稱としては“遠見火山群とする事を提唱した。

1950年の調査の結果から、火山活動の時期が二回あるとの推論が確認され、更に火山活動開始が従来考へられておたより、古くへ遡る事が明らかになった。

遠見火山区の南縁を構成する、大分川流域のオ三系研究は、元大首藤次秀氏により続けられて居り、その戸序区分は次の如くである。

大分 戸群	{	大分累戸	-----	更新世
		判田累戸	}	鮮新世
		東植田累戸		
		庄内累戸		

火山岩類とこれらオ三系との関係に於て、私は次の事実を認め之に。

1) 小虎、鹿鳴火山岩類は二三の地塊に於て東植田

川川川川、岐阜県浪浪町北方地域に発達する新生代戸の研究から、一応、大分述べるよある結論に到達した。

i) 本地域の新生代戸の、1戸群・7累戸に分けられるがこれらの累戸間の諸関係は、井底正二に於て提出された「地質学の本法則」(科学: 20巻・7号・301頁)の適用によつてはじめて理解されること。

ii) これらの累戸が生成し、沈降部の収状方とらえ、その沈降の過程方ある程度明らかとする事ができたが、これら、局所的な沈降度の小ささ、として移動をくりかえす不規則なものであることがわかった。

iii) 後背地に対する、堆積盆地と、実際に地戸が生成する盆地(地戸生成盆地-假稱)との、区別する必要がある。そうすることによつて、複雑な堆積岩の諸現象(特に不整合、戸理、基底破砕等)が明確に把握出来ること。

以上のことからより敷衍して従来教科書的地質学の諸概念に対して若干の批判的試み(特に不整合、地層階等)に就いて)地戸区分の段階性と、

地層生成盆地発展の段階性との関係を論じ、地層の区分について、いろいろの新しい考え方を述べた。



大阪層群の 珪藻化石について

(1950.10.25.講演)

市原 実

大阪平野西辺部に発達している大阪層群の、珪・砂・粘土からなる地層で、今迄、地質学者は、その大部分がlacustrine depositであつた、一枚の海成粘土層が、その間にはさまっていると考えていた。最近、これらの地層を詳しく調べて、珪藻化石が豊富に見え、その大部分は、海成のもので、所謂アツキtuff、および粘土層の上半分のみ、淡水珪藻の存在することが明らかになつた。その種類は次のようなものである。

Aulacodiscus Kittoni, *Aulacodiscus Oregonus*, *Campylodiscus Echeneis*, *Campylodiscus Daenelianus*, *Brachnodiscus ornatus*, *Ceratulus turgidus*, *Coscinodiscus marginatus*, *Coscinodiscus oculusindis*, *Auliscus pruinosis*, *Auliscus caelatus*, *Auliscus Leudigeri*, 以上 海成

Stephanodiscus niagarae, *Pinnularia* sp. 以上 淡水成

すなはち、化石同定Kは、御坂助下さつに鴨川高松実習館地質学Kに多く御礼申し上げます。

富山縣南部の “綠色凝灰岩層”

(1950.11.講演)

池田 展生・松本 隆

富山縣南部の“綠色凝灰岩層”の明確な不整合によつて上下の2つに分けられる。上部は八尾層群の下部に當る岩船系層で大部分は兩澤石切山岩とこの凝灰岩・凝灰角礫岩よりなり明らか海底火山の噴出物である。岩船火山活動上りや、お、お、一部は

並行して海成層(従来の八尾層群の下部)の堆積が行われた。五山は石英凝灰岩類の火山であるが、これらの岩船火山活動の後期に行われた。岩船系層の下には火山灰層を含んだ凝灰岩(砂岩・凝灰岩)があり、岩船の安山岩がこれを覆き、一前その地層をもつてはいる。柳原系層の前には可なり長い剥離層があり、その下に古い方の綠色凝灰岩層、即ち太見山層群がある。太見山層群の一部をのぞき石英粗面岩類とこの凝灰岩よりなる。この石英粗面岩の一部は可長石凝灰岩であるが、これらの層の間にみられるものと指定されるふしもあり、異日本の新第三系を“綠色凝灰岩層”とし、より上位の地層に分けるよりも、この凝灰岩層、そのものの2分の方、地質学的意義があり、かつその地質学方面に於ても重要な意義をもつものと考へられるのである。尚、岩石学的に2-3の重要な事項について述べ、くわしくお、お、地質学雑誌にのせる予定である。



ET乾板 による岩石鋳物 Autoradiography

1 岩石薄片への應用

(1950.12.17.講演)

早瀬 一

近年原子核物理学の研究に伴ひ粒子線乾板(nuclear emulsion)の発達が著しく促進された。イーストマンのNT乾板、イルフォートのNR乾板及びその他を使用した富士写真フィルム研究部試作品ET乾板がこれである。乾板膜面中に出来るX線trackは固有の長さ、太さ(grain density)をもつもので他の荷電粒子線(α、β)と区別出来る。それ故に岩石鋳物を長時間直接Kこれらの乾板に装着させて自発作用、photoluminescence等によるα、βはそれらが著しく短い限り差支へない。長時間露出するKの一度出来KX線trackが周囲の極端ととも消失するfadingの傾向があるからETを使用しKET-2Eでは一ヶ月程度の露出K於て尚且とならない。fadingについては更K研究実験中である。X線の甲で最大の飛程を有す